

7月 Before / After 教材

Sample 1：祭りの重み

記録写真から、担ぎ手の熱と重さを伝える作品へ

① 作品のGoalを知る

② 技術でGoalに近づく

前半1時間で見える教材サンプル



1. Before：元写真を見る

まずは「何が写っているか」「どこに視線が向くか」を観察します



観察ポイント

- 主役候補：神輿を担ぐ人たちの表情と腕
- 視線：背景や周囲の人にも散りやすい
- 印象：現場の迫力はあるが、主題が少し広い
- 課題：顔・手・肩に絞り、密集感を強めたい

Beforeは「失敗」ではありません。
作品のGoalを考えるための出発点です。

2. After：作品風に整えた写真

写真の见せたい点を強め、見る人の視線が主役へ向かうようにします



Afterで強まった印象

- 表情と腕が画面いっぱいに入り、熱量が増した
- 左側の顔を少し持ち上げ、表情が読みやすくなった
- 上部を少し詰め、人の密度と迫力が強まった
- 明暗を残し、祭りの重厚感を保った

正解は一つではありません。
これは「作品化の方向」の一例です。

3. 編集ポイントと理由

何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます

編集ポイント

- 1 人物密度を高める：顔・腕・肩が伝わる範囲に切り取る
- 2 左側の顔を少し明るくする：表情を見せる
- 3 全体は明るくしすぎない：重さと圧力を残す
- 4 上部を整理する：神輿の説明性を残しつつ主役を人へ寄せる
- 5 赤い鉢巻と法被の模様を活かす：視線の流れを作る

Goal :
「神輿を担ぐ人たちの熱量と重み」を伝える

Before



After



4. 作品タイトル案

タイトルは、写真の内容だけでなく「感じてほしいこと」を短く表します



候補

第一候補 祭りの重み

候補2 担ぐ者たち

候補3 肩に宿る熱

候補4 神輿の中へ

おすすめは 祭りの重み
神輿の物理的な重さだけでなく、伝統と熱量の重さまで伝わります。

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短い文章で補います



キャプション例

肩と腕が重なり合う狭い空間の中で、担ぎ手たちの息づかいが押し寄せる。

表情だけでなく、手・腕・背中が神輿の重さを語っている。

講座で伝えたいこと

- 写真は広く写すほど良いわけではない
- 主役を決めて切り取ると、作品の力が増す
- 暗さを残すことで、祭りの重厚感が出る

7月 Before / After 教材

Sample 2：提灯の記憶

夜祭りの記録から、余韻と後ろ姿を伝える作品へ

① 作品のGoalを知る

② 技術でGoalに近づく

前半1時間で見える教材サンプル



1. Before：元写真を見る

まずは「何が写っているか」「どこに視線が向くか」を観察します



観察ポイント

- 主役候補：背中的人物・麦わら帽子・奥の提灯
- 視線：明るい提灯と群衆に分散する
- 印象：夜祭りの雰囲気はあるが、主役が埋もれる
- 課題：後ろ姿を中心に、記憶のような空気に整えたい

Beforeは「失敗」ではありません。
作品のGoalを考えるための出発点です。

2. After：作品風に整えた写真

写真の见せたい点を強め、見る人の視線が主役へ向かうようにします



Afterで強まった印象

- 縦構図で後ろ姿が主役として立った
- 奥の提灯を柔らかく残し、祭りの記憶を表現した
- 周辺を落として、視線を人物の背中へ集めた
- 暖かい光で夜祭りの余韻が強まった

正解は一つではありません。
これは「作品化の方向」の一例です。

3. 編集ポイントと理由

何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます

編集ポイント

- 1 縦に切り取る：後ろ姿と奥行きを強調する
- 2 背景を少しぼかす：提灯の存在感を残しつつ主役を守る
- 3 周辺を落とす：視線を背中へ戻す
- 4 暖色を整える：祭りの灯りらしさを出す
- 5 余白を残す：静かな余韻を作る

Goal：
「夜祭りを見つめる後ろ姿の余韻」を伝える

Before



After



4. 作品タイトル案

タイトルは、写真の内容だけでなく「感じてほしいこと」を短く表します



候補

第一候補

提灯の記憶

候補2

夜の背中

候補3

祭りの余韻

候補4

灯りの先へ

おすすめは 提灯の記憶

説明しすぎず、夜祭りの余韻と背中のお話が伝わります。

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短い文章で補います



キャプション例

にぎわいの中で、ひとりの背中が提灯の灯りを見つめている。

祭りの音が少し遠のいた瞬間、記憶のような光だけが残る。

講座で伝えたいこと

- 後ろ姿でも主役になる
- 背景をぼかすと、雰囲気を残したまま視線を整理できる
- 夜の写真は明るくしすぎない方が余韻が残る

7月 Before / After 教材

Sample 3：浜辺の神事

説明写真から、厳かな所作を伝える作品へ

① 作品のGoalを知る

② 技術でGoalに近づく

前半1時間で見える教材サンプル



1. Before：元写真を見る

まずは「何が写っているか」「どこに視線が向くか」を観察します



観察ポイント

- 主役：白装束の神職と捧げもの
- 視線：背景の人や神輿にも広がる
- 印象：場面は分かるが、所作の静けさが弱い
- 課題：二人の動きと神事の空気を見やすくしたい

Beforeは「失敗」ではありません。
作品のGoalを考えるための出発点です。

2. After：作品風に整えた写真

写真の见せたい点を強め、見る人の視線が主役へ向かうようにします



Afterで強まった印象

- 二人の神職と捧げものに視線が集まった
- 背景を柔らかくし、厳かな空気が出た
- 白装束の質感と光が整い、所作が見えやすくなった
- 人物の間にある余白が、静けさを支えている

正解は一つではありません。
これは「作品化の方向」の一例です。

3. 編集ポイントと理由

何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます

編集ポイント

- 1 神職を主役に切り取る：所作が伝わる距離にする
- 2 背景を整理する：神輿や観客を説明要素として抑える
- 3 白装束を整える：白飛びさせず、清らかさを出す
- 4 明暗をやや柔らかくする：厳かな空気を作る
- 5 捧げものを見せる：神事の意味が伝わるようにする

Goal :
「海辺の神事の厳かな所作」を伝える

Before



After



4. 作品タイトル案

タイトルは、写真の内容だけでなく「感じてほしいこと」を短く表します



候補

第一候補

浜辺の神事

候補2

白き所作

候補3

祈りを捧ぐ

候補4

潮風の儀

おすすめは 浜辺の神事
場所と行為が素直に伝わり、教材としても分かりやすいタイトルです。
。

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短い文章で補います



キャプション例

白装束の神職が、海辺の光の中で静かに頭を垂れる。

にぎわいの祭りの中に、祈りの時間だけが凜として立ち上がる。

講座で伝えたいこと

- 動きの大きさだけが作品の強さではない
- 静かな所作も、切り取り方で主役になる
- 背景を抑えると、儀式の意味が伝わりやすくなる

7月 Before / After 教材

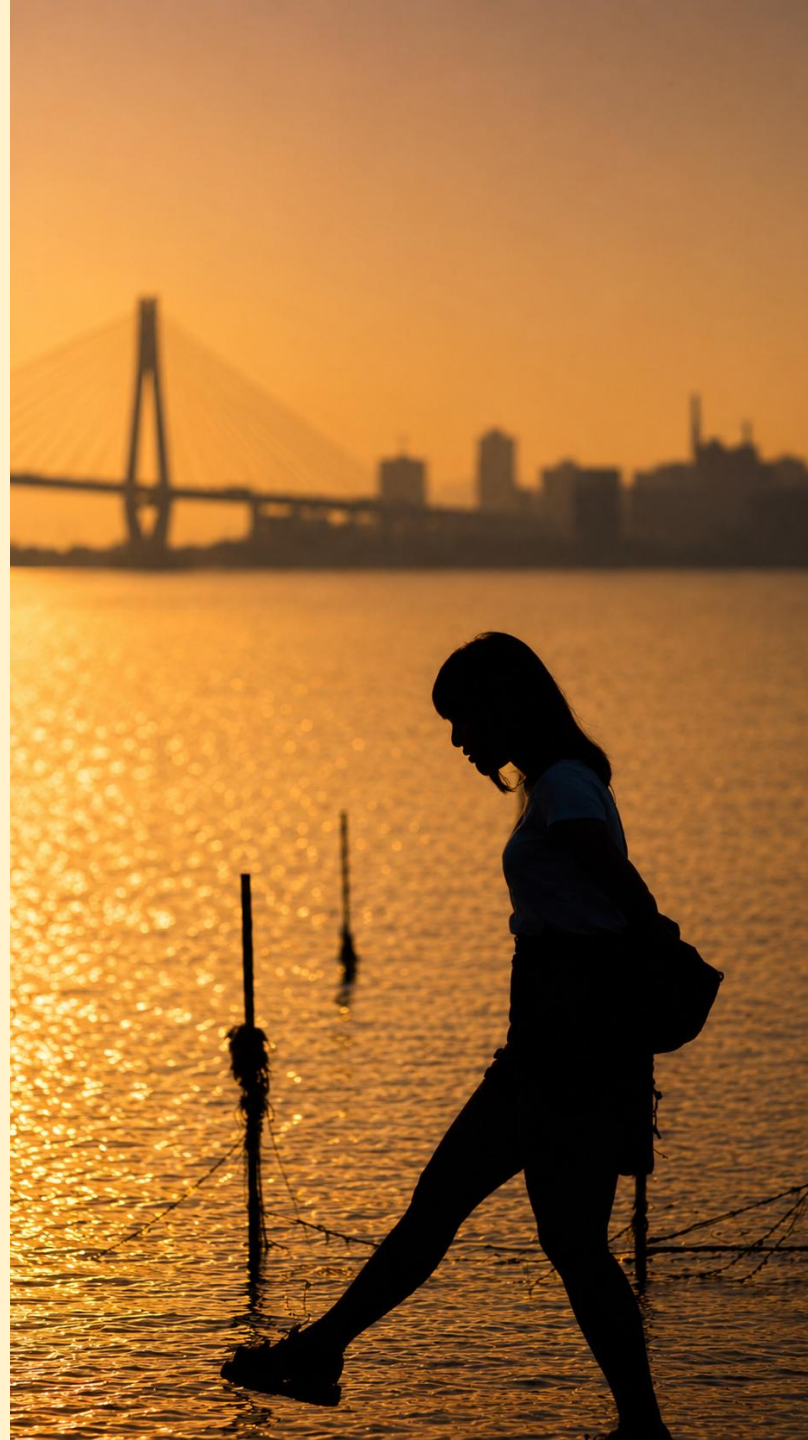
Sample 4：夕暮れのシルエット

海辺の一場面から、静かな物語を伝える作品へ

① 作品のGoalを知る

② 技術でGoalに近づく

前半1時間で見える教材サンプル



1. Before：元写真を見る

まずは「何が写っているか」「どこに視線が向くか」を観察します



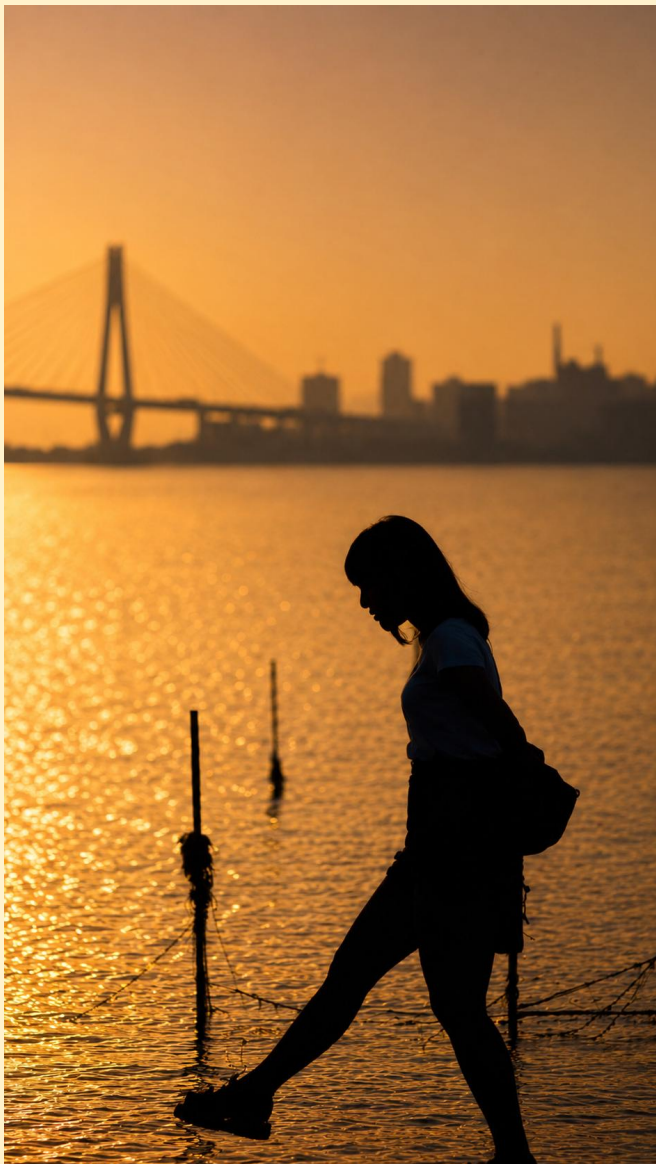
観察ポイント

- 主役：海辺を歩く人物のシルエット
- 視線：背景の橋や建物にも向かう
- 印象：夕景の雰囲気はあるが、少し説明的
- 課題：人物の孤独感と海の光を強めたい

Beforeは「失敗」ではありません。
作品のGoalを考えるための出発点です。

2. After：作品風に整えた写真

写真の見せたい点を強め、見る人の視線が主役へ向かうようにします



Afterで強まった印象

- 縦構図で人物の存在感が増した
- 黄金色の海面が強まり、情緒が出た
- 人物をシルエットとして整理し、物語性が増した
- 背景を簡略化し、静かな余白が生まれた

正解は一つではありません。
これは「作品化の方向」の一例です。

3. 編集ポイントと理由

何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます

編集ポイント

- 1 縦に切り取る：人物と海面の光を主役にする
- 2 シルエットを締める：形で感情を伝える
- 3 海の黄金色を整える：夕暮れの印象を強める
- 4 背景を抑える：橋や建物の説明感を弱める
- 5 余白を活かす：静けさと孤独感を出す

Goal :
「夕暮れの海辺を歩く静かな物語」を伝える

Before

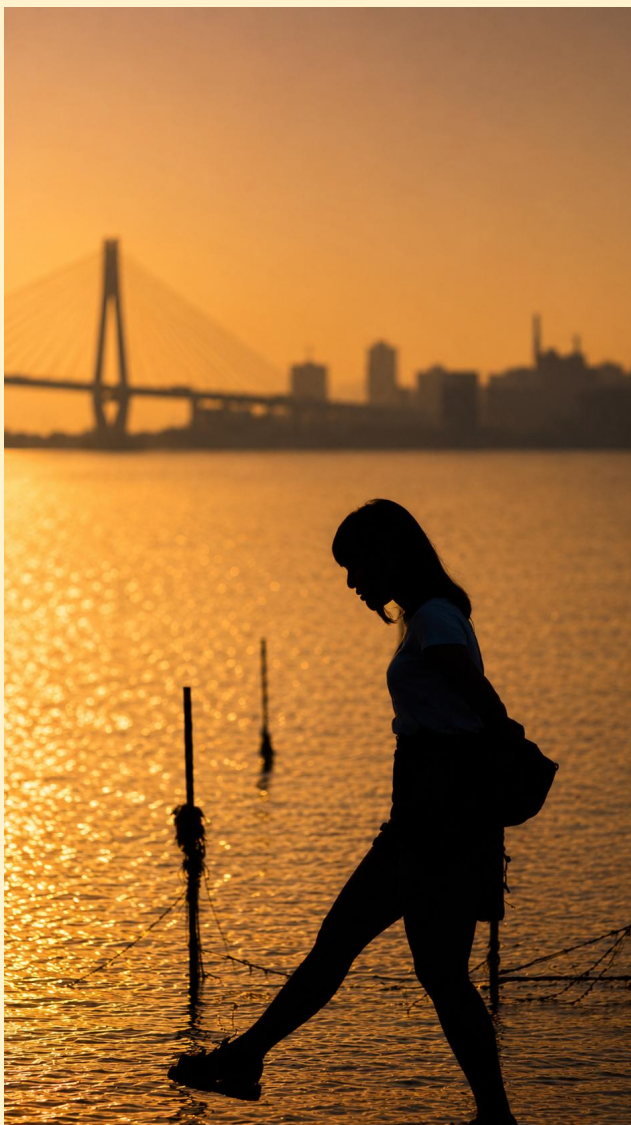


After



4. 作品タイトル案

タイトルは、写真の内容だけでなく「感じてほしいこと」を短く表します



候補

第一候補

夕暮れのシルエット

候補2

浜辺の帰り道

候補3

黄金の海を歩く

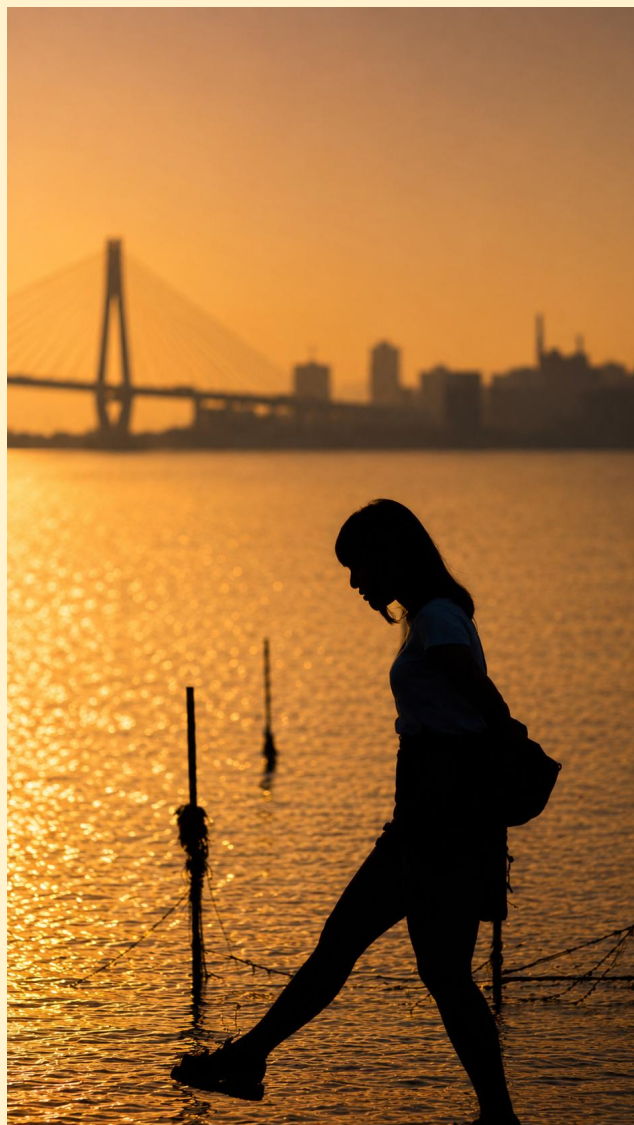
候補4

静かな残照

おすすめは 夕暮れのシルエット
人物の姿と夕景の光が、短く素直に伝わります。

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短い文章で補います



キャプション例

黄金色に光る海を背に、ひとりの影が静かに歩いていく。

何気ない帰り道が、切り取り方によって小さな物語になる。

講座で伝えたいこと

- シルエットは表情が見えなくても感情を伝えられる
- 余白は「何もない場所」ではなく、物語を支える空間になる
- 色を整えると、夕景の印象は大きく変わる

7月 Before / After 教材

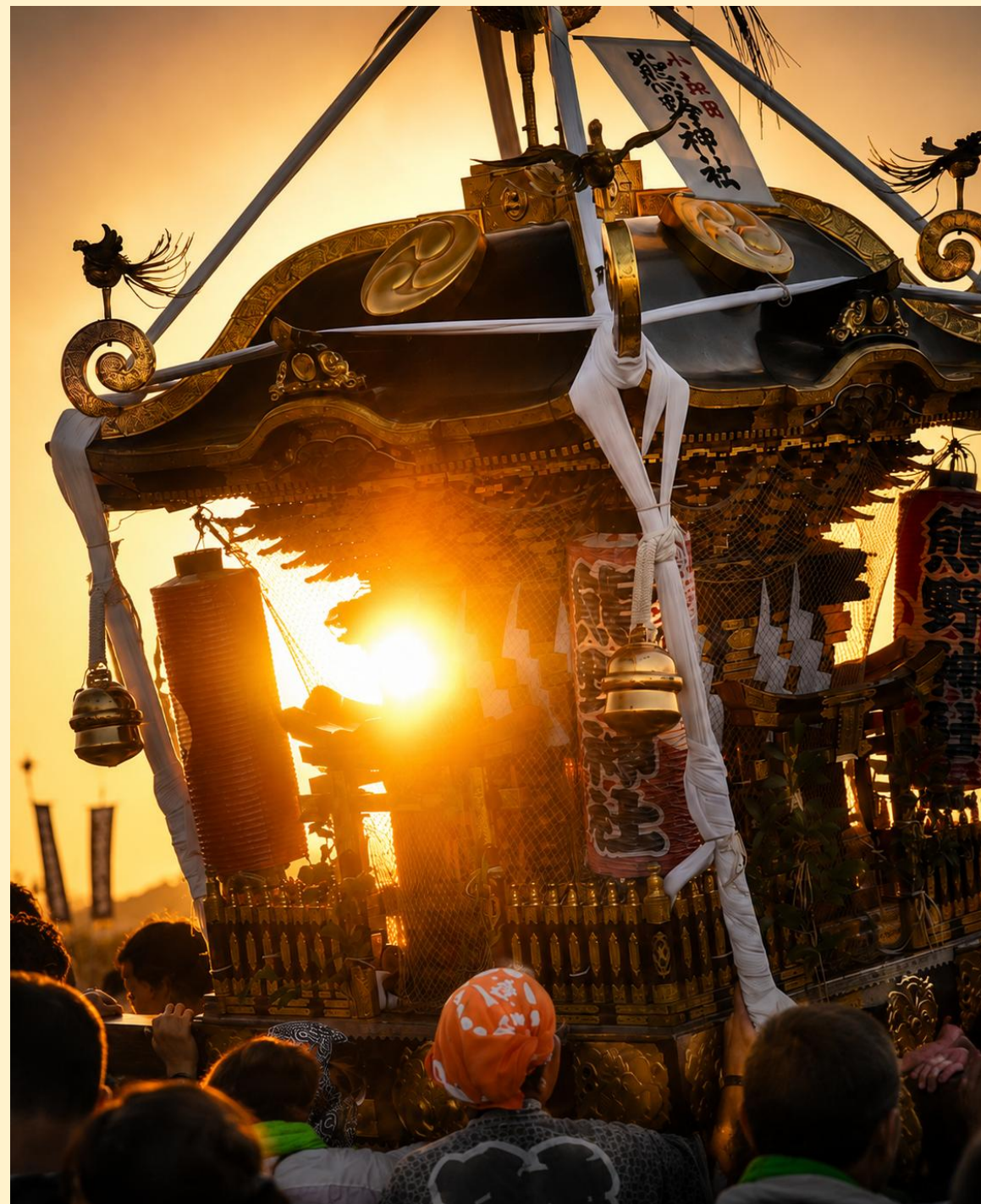
Sample 5：光を担ぐ

夕日の逆光から、神輿の神々しさを伝える作品へ

① 作品のGoalを知る

② 技術でGoalに近づく

前半1時間で見える教材サンプル



1. Before：元写真を見る

まずは「何が写っているか」「どこに視線が向くか」を観察します



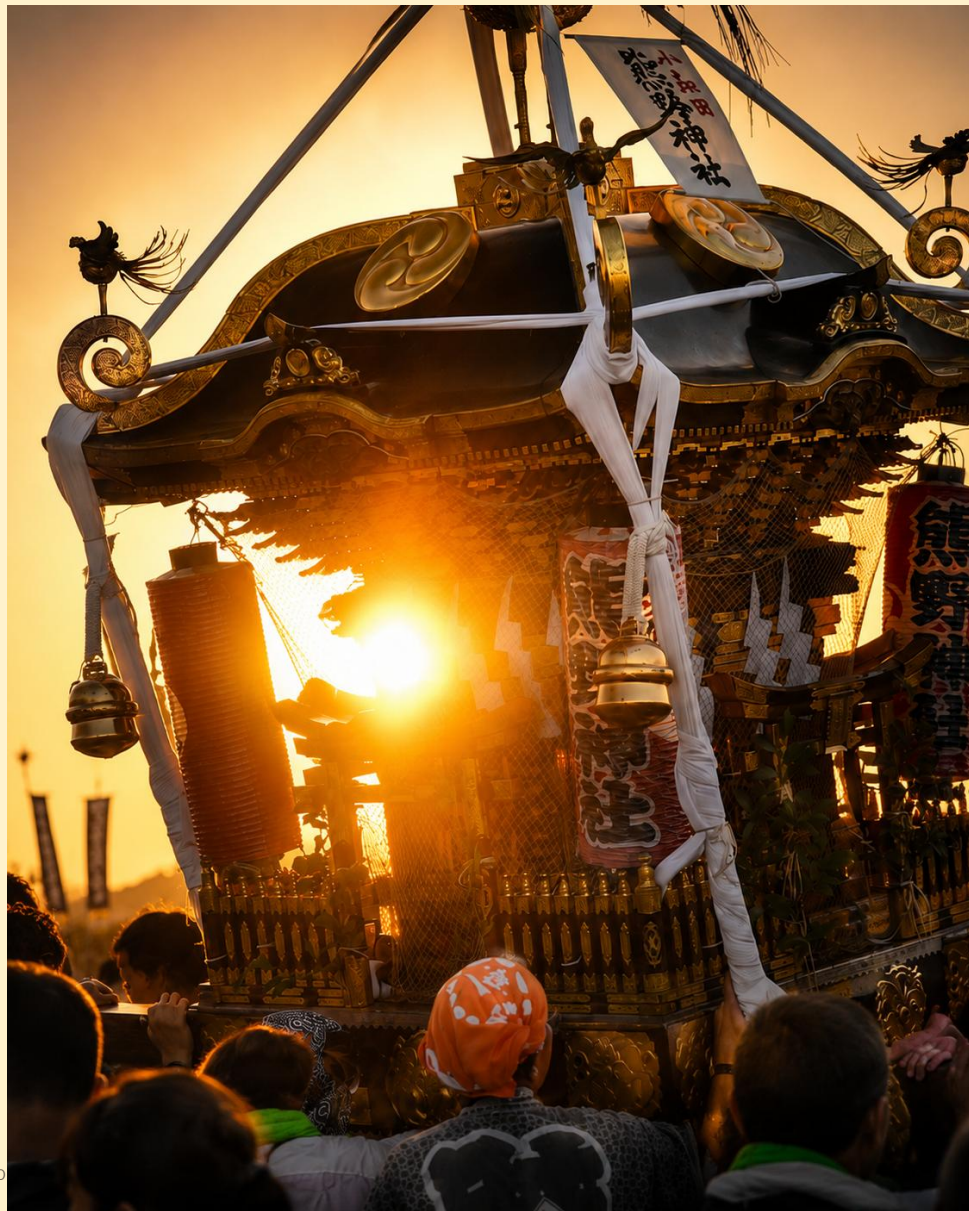
観察ポイント

- 主役候補：夕日・神輿・担ぎ手たち
- 視線：右下の人物や周囲の人にも散る
- 印象：光は美しいが、横位置では少し雑多に見える
- 課題：神輿と光へ視線を集め、象徴性を高めたい

Beforeは「失敗」ではありません。
作品のGoalを考えるための出発点です。

2. After：作品風に整えた写真

写真の见せたい点を強め、見る人の視線が主役へ向かうようにします



Afterで強まった印象

- 縦構図で神輿の高さと存在感が強まった
- 右下の不要な人物を整理し、視線が逃げにくくなった
- 夕日が神輿の中心から差し、神々しさが増した
- 幟と担ぎ手を残し、祭りの場の空気も伝わる

正解は一つではありません。
これは「作品化の方向」の一例です。

3. 編集ポイントと理由

何を変えたかではなく、「なぜそう整えるのか」を見ます

編集ポイント

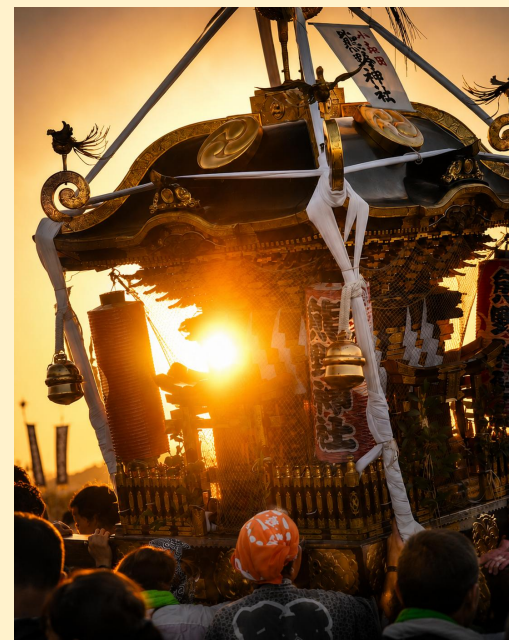
- 1 縦長に切り取る：神輿の高さと荘厳さを見せる
- 2 右下の人物を整理：主役から視線が外れないようにする
- 3 逆光を活かす：夕日を神輿の中心に重ねる
- 4 金色を整える：装飾の輝きを引き出す
- 5 人を適度に残す：祭りの臨場感を支える

Goal :
「夕日を背負った神輿の神々しさ」を伝える

Before

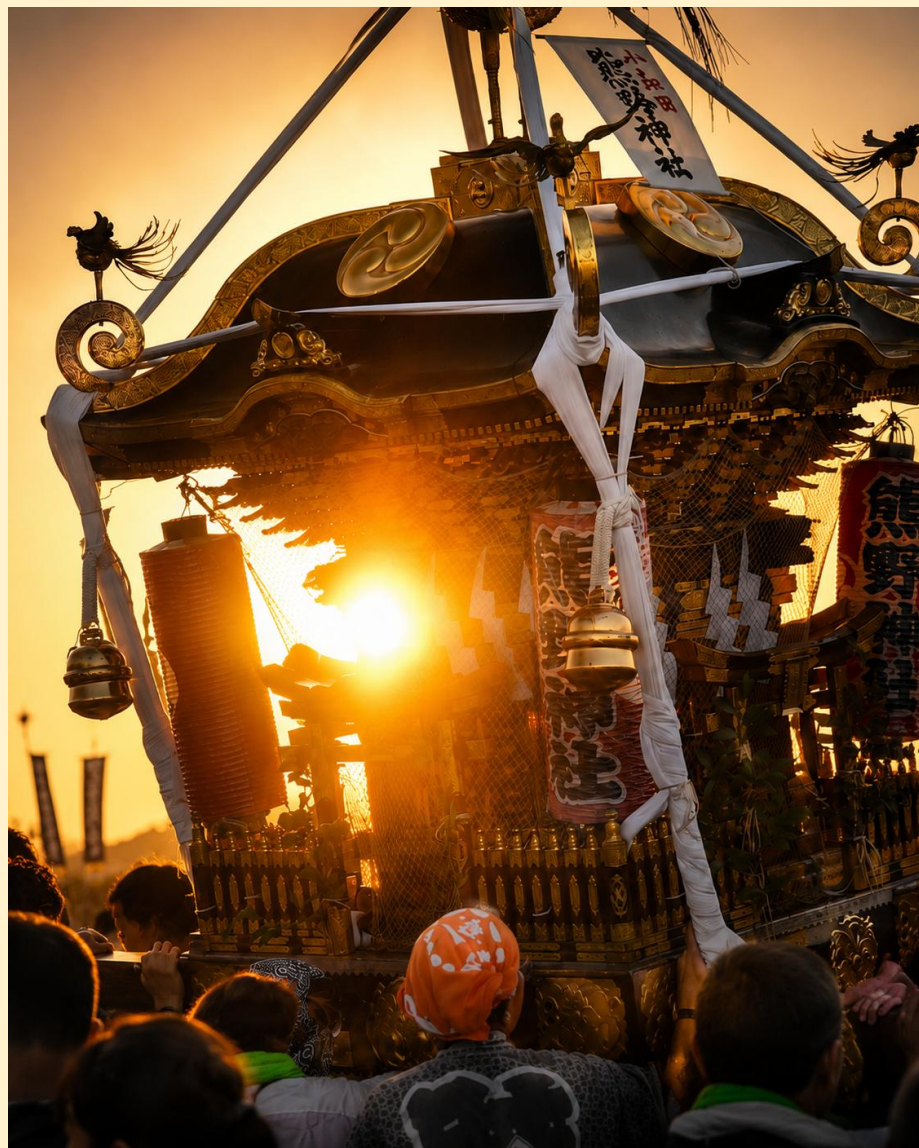


After



4. 作品タイトル案

タイトルは、写真の内容だけでなく「感じてほしいこと」を短く表します



候補

第一候補

光を担ぐ

候補2

夕陽の神輿

候補3

祭りの残光

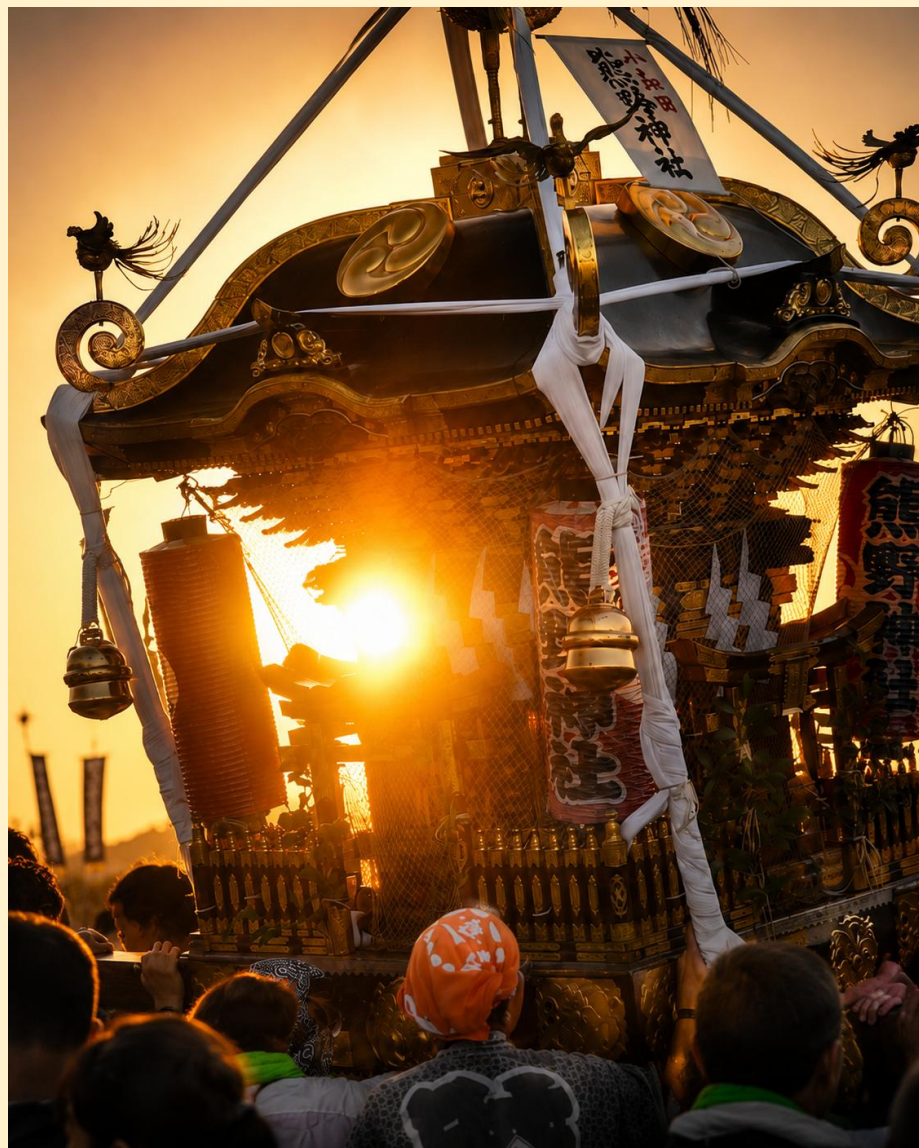
候補4

神輿、陽を背に

おすすめは 光を担ぐ
神輿を担ぐだけでなく、夕日の光そのものを担いでいるように見えます。

5. キャプション案

キャプションは、写真に込めた思いを短い文章で補います



キャプション例

沈みゆく陽が、神輿の奥からまばゆく差し込む。

人々に支えられた神輿が、光を背負って浜の祭りを進んでいく。

講座で伝えたいこと

- 縦構図にすると高さや神聖さが伝わりやすい
- 不要な人物を整理すると、主役が強くなる
- 逆光は失敗ではなく、作品のドラマになる

写真を見る目を養うテスト：コンテスト向き Top3 を選ぶ

10作品の中から「コンテストに出すなら強い」と思う3作品を番号で選んでください。 1位：____ 2位：____ 3位：____

見る観点：一瞬の強さ / 主題の明確さ / 構図 / 光と色 / 作品性 ※正解は一つではありません。理由も一言で。



① 赤傘の神事



② 大風を引く力



③ 波を裂く



④ 祭りの重み



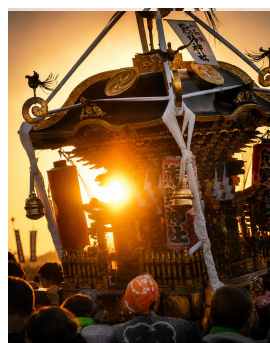
⑤ 提灯の記憶



⑥ 浜辺の神事



⑦ 夕暮れのシルエット



⑧ 光を担ぐ



⑨ 波と少女



⑩ 神輿と手の高揚



② 大風を引く力



③ 波を裂く



④ 祭りの重み



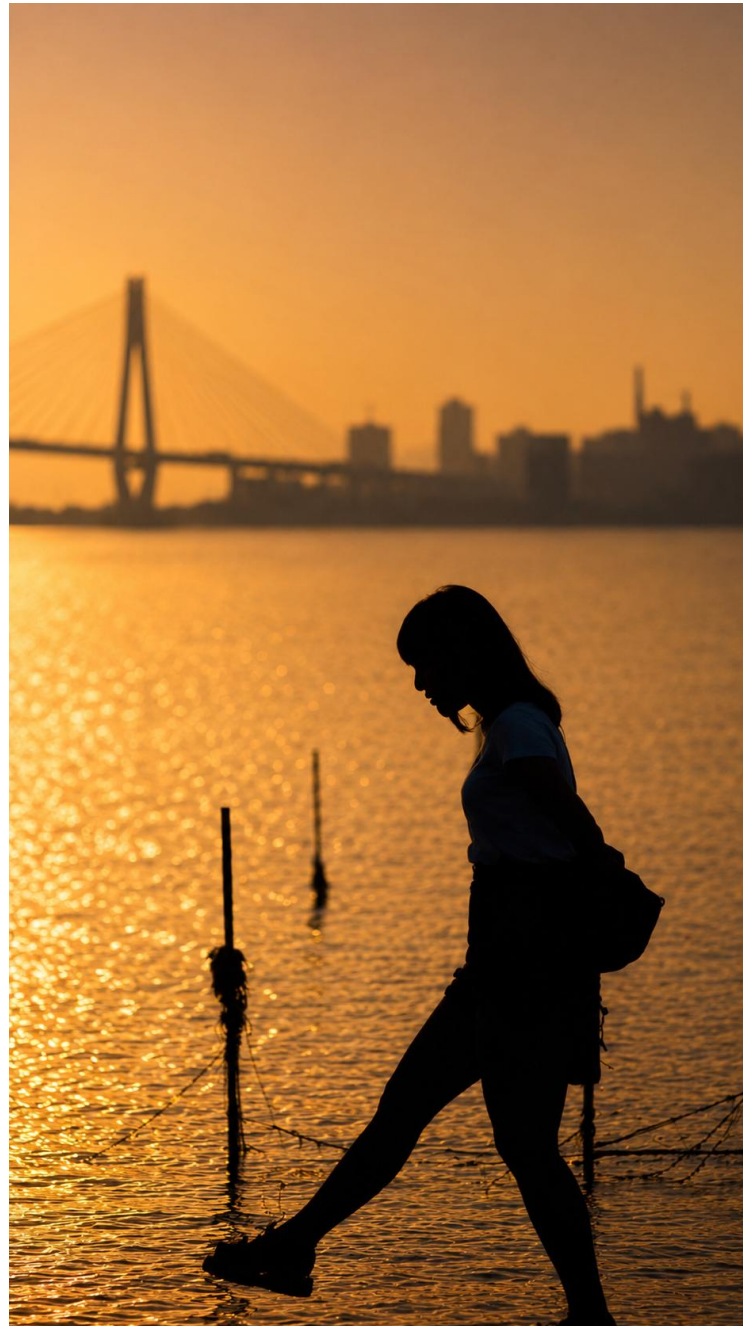
⑤ 提灯の記憶



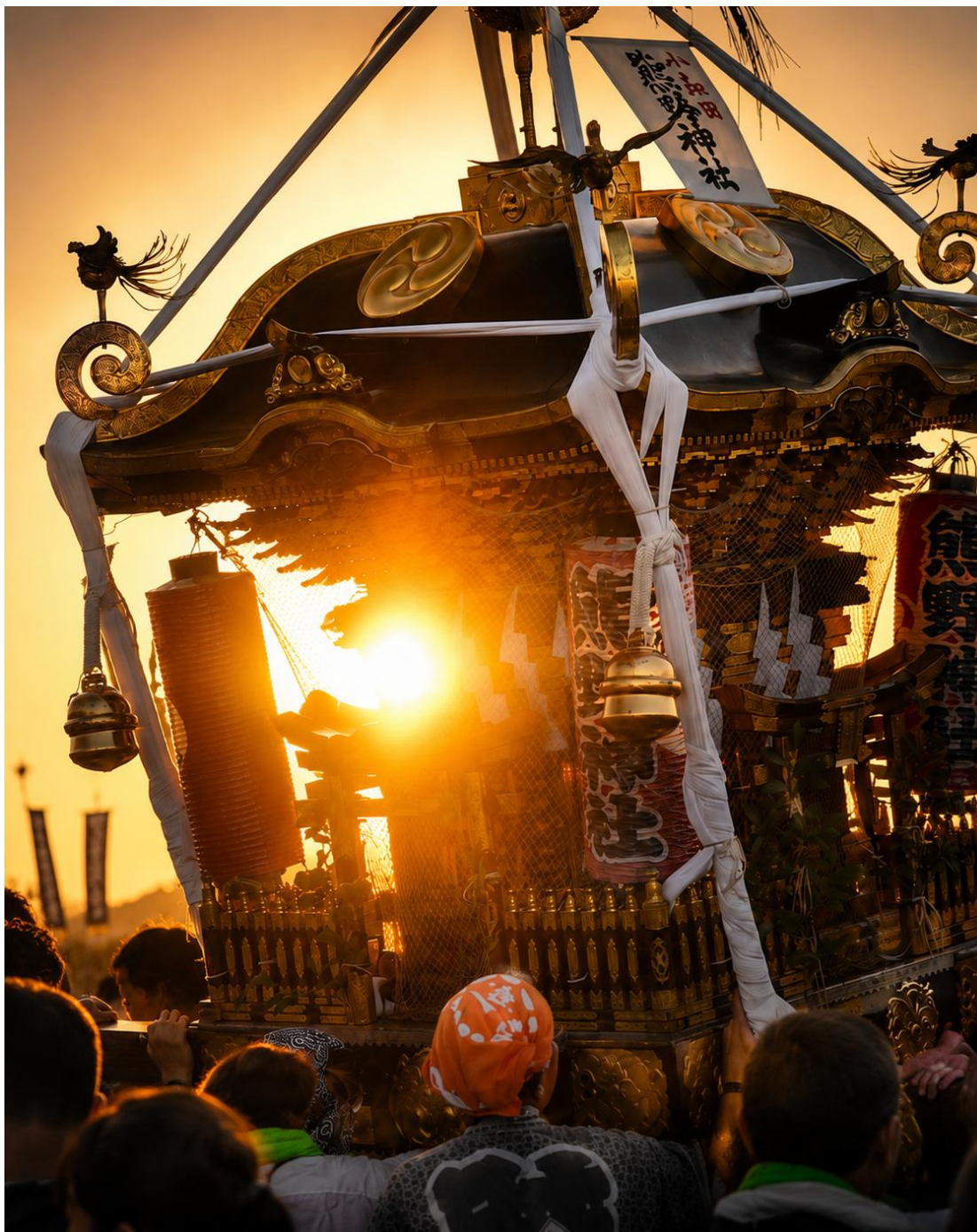
⑥ 浜辺の神事



⑦ 夕暮れのシルエット



⑧ 光を担ぐ



⑨ 波と少女



⑩ 神輿と手の高揚

